



職業の本義を悟れ

天は自ら助くる者を助くる、たへ良い運であつて... 職業の本義を悟れ... 成功に依つて學を得ることを...

秘密狂怒心

途端、仕切の木戸を開いて... 秘密狂怒心... 狂怒の心を秘す...



天は自ら助くる者を助くる、たへ良い運であつて... 職業の本義を悟れ... 成功に依つて學を得ることを...

謝恩最終大興行... 砂繪呪縛... 砂繪呪縛... 砂繪呪縛... 砂繪呪縛...

開業披露 洋食部開業... 食堂完備 配達迅速... 二十一日開業... 電話一四一四番

中元贈答品... ツルヤ... 植村喜一... 市原病院... 電話二四四番

新盆御用提灯... 寺田提灯店... 葉加藤提灯店... 菅野提灯店... 加藤提灯店

赤心堂病院... 婦人科... 外科... 内光線科... 電話五七四番

三井呉服店... 此のマーク!... 集募員店... 電話三三三番

高久病院... 内科小兒科... 外科花柳病科... 耳鼻咽喉科... 電話五二三番

耳鼻科専門... 大和田醫院... 電話一七〇番

産婆 草野 静枝... 診療開始... 木村外科醫院... 電話三〇九番

南町裏地下一帯に巨り 石炭探堀の許可願ひ出る

都市計画根本より覆され 平町當局極度に狼狽

仙臺礦山監督局福井技師はむねの探堀出願の結果福井縣
突如昨日午三時三十分間、南町裏の探堀出願が許可される
に巨り南町裏を貫流するに至つた場合今後平町の登出願
新川以南の水田と精細に掘らば一に同町南進展のみの狼狽
調査し引上げが同技師の手にあつてゐるに、其の調査は
命に依るものとして調査はかりでなく現下着々其の
容其の他は一切秘密に附き、建設問題の一噴煙は勿論中
れてゐるが本社ノ仄聞するに、町將來の消長に關する點
に依る。

植田署水泳

廿日植田署に於て、水泳練習の爲め、植田署長以下
植田署長以下、植田署員二十餘名が山崎植田
此の許可出願が他に漏れる
時は許可のみならず、下の
重大困難化を怖れる爲め
其の行動は、
一切秘密に附されて

突飛極なる出願は 全く寝耳に水

伏見平町長の談

別項中町長が唯一發展地帯の水田に對し、警備隊を
として目されてゐる平町南町南町長が、昨日の最後案と
飽くまで反對をする。

の進展あるのみならず、
此の實状を知らぬ多分許
可になる様な事もないだ
らうと思はれるが、萬一
の場合を考慮して平町とし
ては徹底的に反對運動を
續けねばなりません。云々
と語つてゐた。

減收は免れぬ 天候回復しても

石城地方の稲作

石城郡地方に於ける稲作分二十一日から除天多濕にて
稲作の進展は既報の如く低温持續し二十五日に至り
その後の天候回復は唯一の温依然として低く二十八
望みを以て期待されたが廿一日より漸く三十一日及び下
日の報告に依れば七月二十日より三十一日再び低下
一日から八月十五日までの中半以下となり、その後十
一日から八月十五日まで一日として
稲作伸長期の短縮は
依れば依然として日照時少
く稲作は今後天候が回復す
るとも減收は免れないと豫
想されてゐる即ち同様に於
ける氣象變遷に見れば七日
復し温度二十四度以上に昇
り、從つて日照總加算すれば

多少の降雨に見な かなければ、稲作は つたはなはなために日照不 足を生じ、二十日からの、依 つたはなはなために日照不 足を生じ、二十日からの、依

銘酒「白馬」の雪

松本徳一氏

政治界に將來を囑目する

入山第五坑々内にて 安全爆藥破裂

安全爆藥破裂

一名炭盤の下敷となる

平第三校 起債

簡保が住友か

燃え盛る籠に投じ 女房覺悟の焼死

三坂山中の椿事

積年のヒステリーが嵩じ

漁港修築陳情

四倉港運動經過

指定港灣の編入方を

水泳中溺死

石城郡那珂村大字中田釋迦堂

亡き妻の新盆

御惠贈の有無も判らぬ所で御遠慮申
すも異なものなれど新盆の供養は郷
里で致します私は只心中の中で在りし
昔を偲ぶのみです、隨つて提灯其他
の御惠贈は乍失禮御断り申します
平町搔搦小路
鈴木盛之助

亡女カメヨ

本年新盆三相当り
候モ提灯其ノ他ノ御寄贈ハ乍失禮辭
退申候
柳
太田安治

自動車道の爲め 道路荒さる

監督所で調査

市場に好評

組合の努力

平軍の意氣冲天

佐賀六角と對戰

旅先きの難

靴を盗まれる

二百町免稅

石城郡の山間部水田稻作

平軍の意氣冲天

佐賀六角と對戰

旅先きの難

靴を盗まれる

水泳中溺死

石城郡那珂村大字中田釋迦堂

水泳中溺死

石城郡那珂村大字中田釋迦堂